

牛久：学校周辺に見る自然

第4号 みずべ公園

2016年7月7日発行

く 初夏のみずべ公園・生きもの観察 ～②植物に集まる虫たち - エゴノキ>

こんにちは。5/12 ひたち野うしく小4年生と歩いたみずべ公園、今回はエゴノキと虫たちです。



これについては、何度も紹介してきました。「学校周辺の自然」から「エゴノキ」でサイト内検索してみてください。

白い花がびっしり咲くようすも目を引きませんが、甘い香に誘われて、ハチの仲間を中心にいろいろな虫たちが集まります。中でも、大きなクマバチは目立つでしょう。

エゴノキの蜜を吸うクマバチ。体も大きくブーンと大きな音を立てるが、ミツバチと同じくらいおとなしい。



バナナの房のような形をした、昨年つくられたエゴノネコアシフシ(アブラムシのつくる虫こぶ)。



エゴツルクビオトシブミのゆりかご。

エゴノキの枝にはバナナの房のような形をした虫こぶがついていることがありますが、名づけた人はこれをネコの足に似ていると考え、「エゴノネコアシフシ」という名前がつけられました。実のように見えますが、夏に緑色で大きくなった時に割ってみると、中にはたくさんのアブラムシがいます。

また、葉が切りとられてくるくる巻いてぶら下がっているのを見かけることがあります。これはオトシブミが作ったゆりかごで、中には卵が一つずつ産みつけられています。



最後に、コガタズメバチの作り始めの巣。中で女王蜂が1頭で巣作りをしていました。卵も産みつけられていますね。おとなしく、枝をゆすったりしなければ襲われることはないそうです。【理科支援員：宮内】
巣作り中のコガタズメバチの女王。